

〔作 品〕

## 宮島老舗旅館「岩惣」襖絵 「錦楓」「観月」

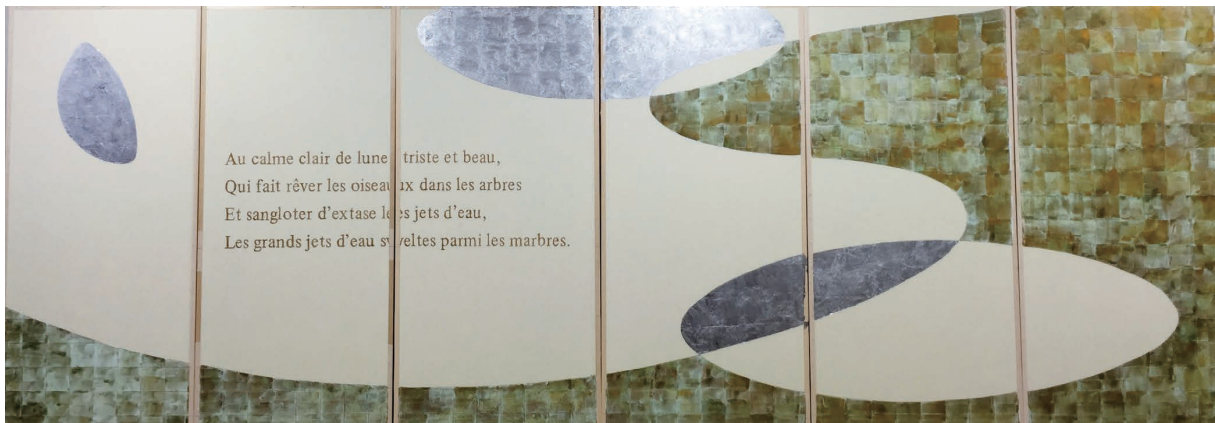
三 柵 正 典\*

(2017年11月9日 受理)

襖絵制作：三柵正典

### Miya-jima Long-established Store in “Iwasou” Fusuma Picture “Kinpuu” “Kanngetu”

Masanori MIMASU\*



\* 広島女学院大学 人間生活学部幼児教育心理学科 教授

宮島 旅館岩惣

宮島を代表する老舗旅館「岩惣」は江戸時代後期（安政元年・1854年）岩惣の初代である岩国屋惣兵衛が、厳島神社の管絃祭の前後一ヶ月間に立つ市の賑わいに着目し、奉行所より紅葉谷（現在のもみじ谷公園）の開拓の許可を受け、川に橋をかけ、溪流に茶屋を設置したのが、その始まりであった。その後、明治時代に旅館形式とし、離れの別棟や本館・新館などを時代の変化と共に

増築し、今日に至っている。その岩惣の女将である岩村玉希さんとのご縁を富岡泰雅堂店主の富永真典さんから頂き、2015年から2016年にかけて岩惣の離れ「錦楓亭」と新館「観月の間」の襖絵を描く機会を頂いた。本論文では、2点の襖絵の制作過程を記すると共に岩惣の歴史的な建築空間と襖絵における現代表現が創り出す不思議さや面白さの一端に触れることが出来ればと考えている。

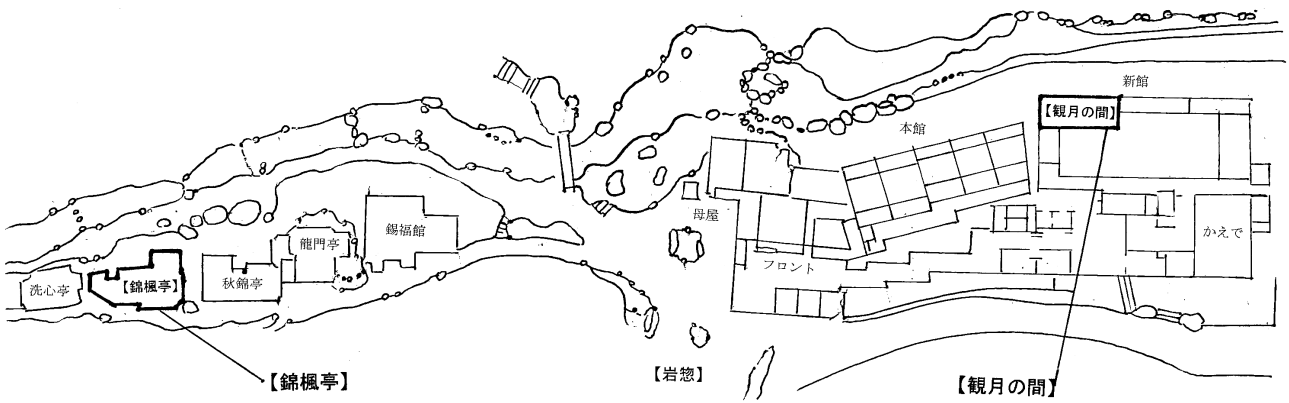


図1 岩惣旅館図面

錦楓亭襖絵

「錦楓亭」は、大正から昭和にかけて造られた5棟（1室1棟）の日本伝統の平屋建の1棟。離れの5棟の中でも最も四季折々の「もみじ谷」の風景を望める建物である。岩惣では「錦楓亭」を以下のように紹介してる。

当宿の中でも最も「もみじ谷」に溶け込んだ、静寂な自然に癒されるひとときをお過ごしいただけます。ロイヤリティにも御利用頂いたお部屋です。四季折々の庭園の眺めがすばらしく、小川のせせらぎや、やさしい自然に包まれたもみじ谷に佇む離れの空間をご堪能いただけます<sup>1)</sup>。

玄関から和室に向かうまでの導線が美しく、楓がその空間を彩るように4枚の襖絵を描いた。宮島の歴史と重ねそれを象徴する絵柄にしたいと思い、「鹿」と「紅葉」をテーマとした。「鹿」は宮島の文化財を代表する平家納経の俵屋宗達が1602年に描いた願文見返し「鹿図」の

デザインを引用し、「紅葉」は岩惣の母屋前の楓の葉を版にして画面を構成した。



図2 「鹿図」平家納経・願文見返し 1602 厳島神社蔵

竹内純一他（2015）は俵屋宗達の「鹿図」について以下のように述べている。

栄華を極めた平清盛が一族の繁栄を願って厳島神社に奉納した平家納経。平安時代の美の粋が結集された装飾美術の最高峰である。1602年この修復に参加し、見返しの絵を制作したのが、琳派が生んだ奇跡の人・俵屋宗達。生家は俵屋を屋号とする京都の上層町衆で金泥絵などの料紙装飾や扇絵などを描く人間だった。宗達にとっては、この修復が初めての大仕事であった。平安の美の神髄に触れた宗達は、以後、金泥・銀泥をふんだんにつかった料紙装飾に新たな地平を切り開いていく。まさにこの金の鹿は、宗達が羽ばたくための血肉となったのである<sup>2)</sup>。



図3 岩惣敷地内楓葉

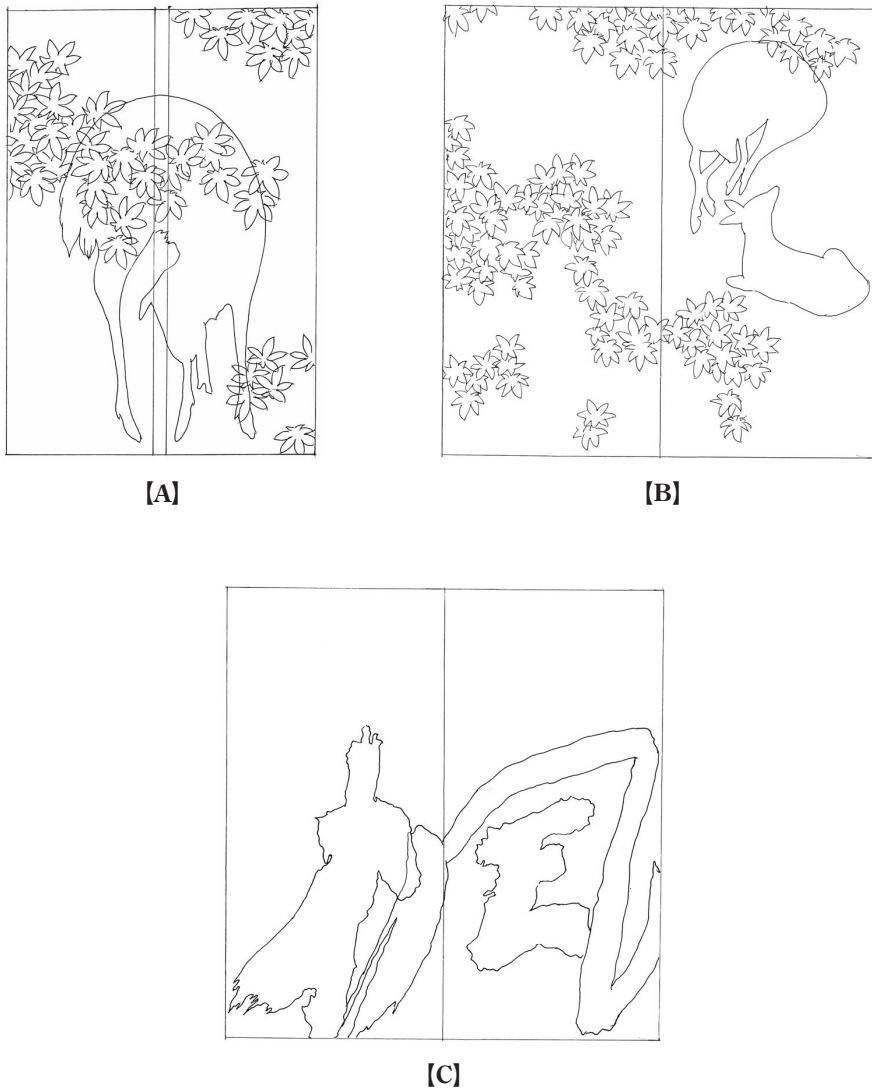


図4 錦楓亭襖絵下絵





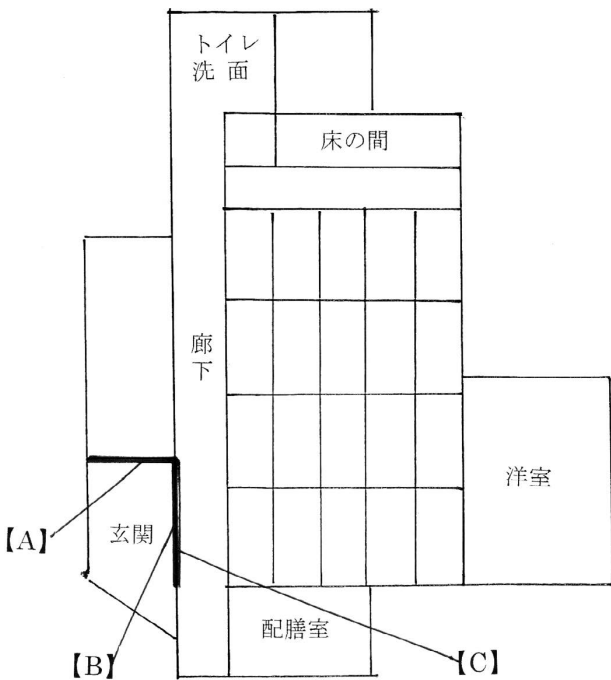
【A】



【B】

図5 錦楓亭襖絵完成作品

↑ ↓



【錦楓亭】

図6 錦楓亭見取り図



【C】



図7 錦楓亭入り口（外側）





図8 錦楓亭襖絵設置風景

観月の間襖絵（岩惣新館）

岩惣の新館は、昭和56年に建築されたの5階建ての建物である（客室30室）。その5階の南端の客室（501）が「観月」である。その部屋から臨む風景は、もみじ谷公園

から厳島神社の鳥居を含む海岸まで見渡たせ、夜には月明かりを海面に映り込む光と共に鑑賞することが出来る。

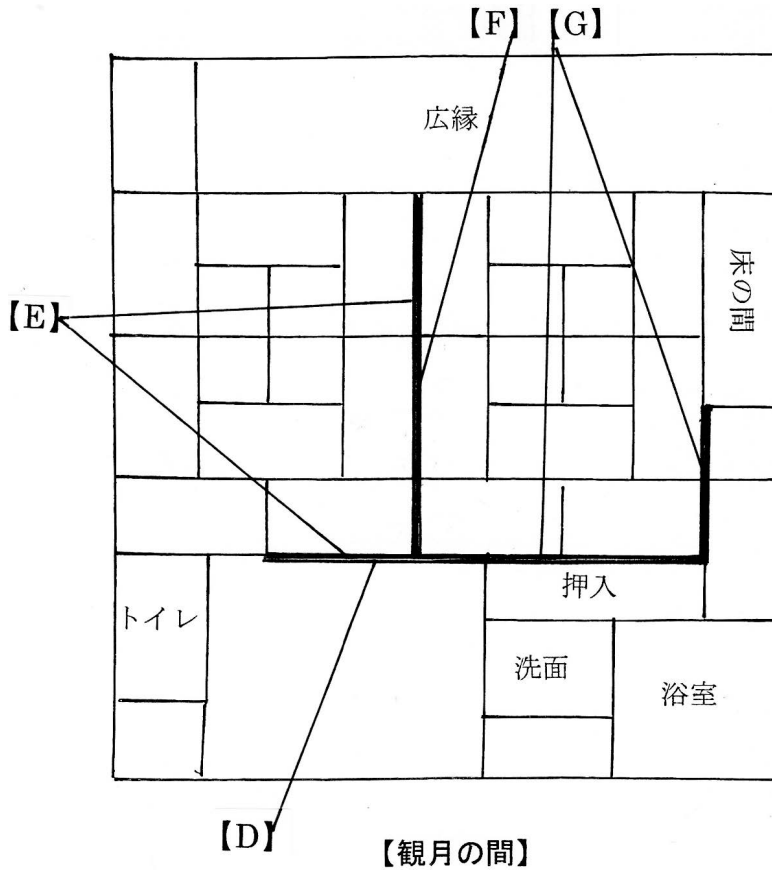
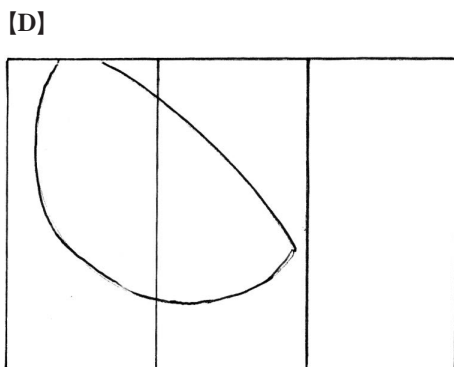


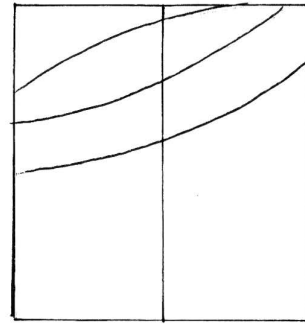
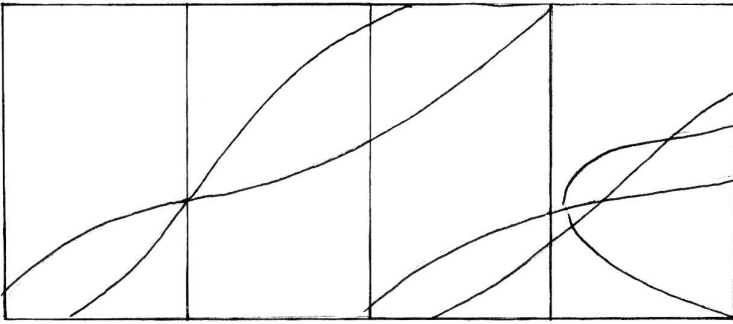
図9 観月の間 見取り図

観月の間 襖絵下絵と対応「月の光」詩<sup>3)</sup>



Clair de lune 月の光  
 詩 ポール・ヴェルレーヌ (1844-1896)  
 曲 ガブリエル・フォーレ (1845-1924)

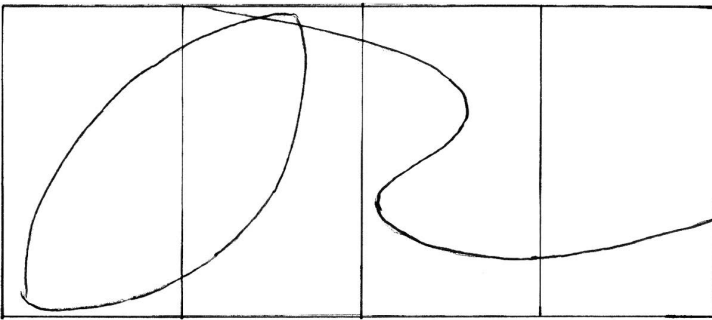
[E]



Votre âme est un paysage choisi  
 Que vont charmant masques et bergamasques  
 Jouant du luth et dansant et quasi  
 Tristes sous leurs déguisements fantasques.

君の心はあえかなる景色に似たり、  
 その中を仮面おどりの行きかいて  
 絃かきならし舞まえど  
 面白き装いの奥はうら悲し。

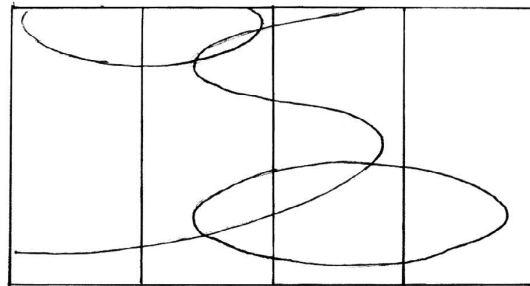
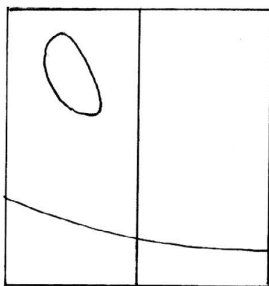
[F]



Tout en chantant sur le mode mineur  
 L'amour vainqueur et la vie opportune,  
 Ils n'ont pas l'air de croire à leur bonheur  
 Et leur chanson se mêle au clair de lune,

歌のしらべは短の調、  
 歌うは恋と世の栄え、  
 されど身の幸足らぬげの  
 声いりまじる月あかり。

[G]



Au calme clair de lune triste et beau,  
 Qui fait rêver les oiseaux dans les arbres  
 Et sangloter d'extase les jets d'eau,  
 Les grands jets d'eau sveltes parmi les marbres.

悲しくもまた美しき月あかり、  
 小鳥は枝に夢を追い、  
 吹上の水は大理石の間にて、  
 楽しみのはてすすり泣く。



観月では、部屋名に沿ってテーマを「月」とした。錦楓亭の玄関空間とは異なり、観月の間全体の空間を現在の風景と重ね、月の満ち欠けや水面に光る様を5つの月で表現し、月を観ることにより、移りゆく心象を歌曲を引用することにより詩的・物語的に表現する方向で制作を進めた。

引用した歌曲はフランス近代音楽を代表する作曲家ガブリエル・フォーレ（1845-1924）の作品「月の光」。詩は、19世紀後半のフランスを代表する詩人ポール・ヴェルレーヌ（1844-1896）。

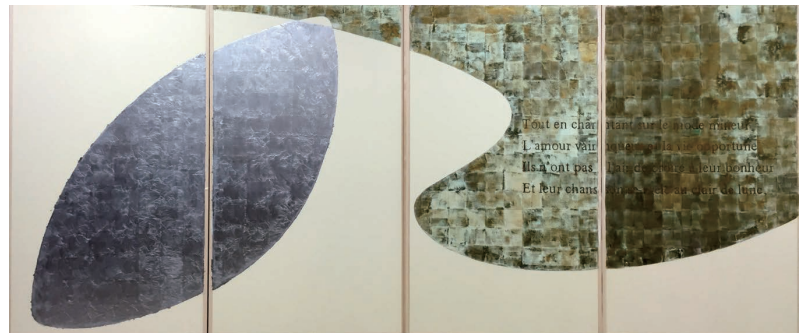
タイトルと3つの文節の詩をそれぞれの月の場面に重ね、金・銀・銅の3色を使い、平面的かつ抽象的に仕上げた。浅野千鶴子他（1959）は曲の解説で歌曲「月の光」

について以下のように述べている。

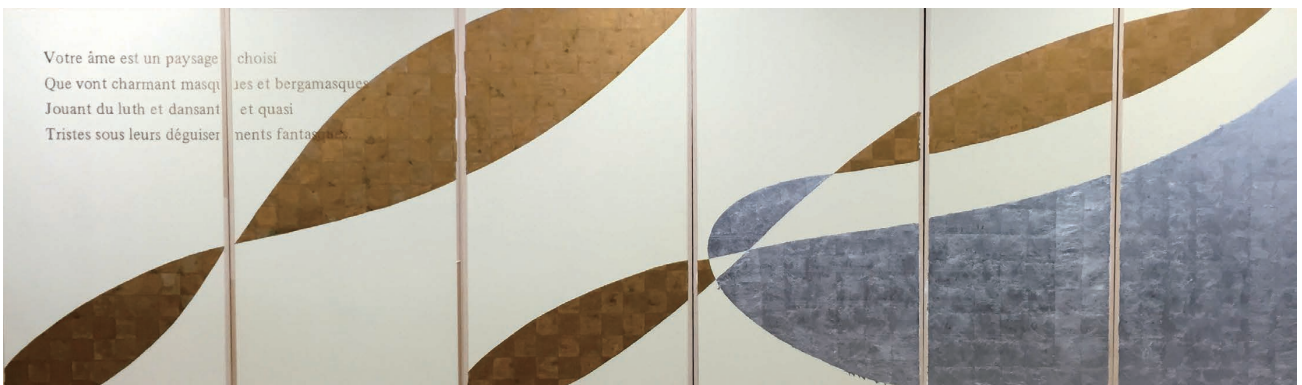
“Menuet（メヌエット）の *rythme* に乗って、恍惚と淀みなく歌いたい。ねばると悪趣味になる。月光を思わせる様な声の質がほしい曲である。ピアノは古い小堅琴 *luth* のつもりで磨かれた粒のそろった音がよい。（中略）この詩のもつ流動性と微妙な音の遊びを味わうこと。形と意味の関連をよく考え、子音母音の価値を知って発音の調音点を正し、声の色のニュアンスを大体予定出来る様にしたい。（中略）味わえば味わう程、*rythme* も *melodie* も *harmonie* もその構成も、この詩と共にいよいよ雅趣を増して、楽聖フォーレの限りない滋味に酔うかたわら、中期の作品の一部の輪郭が、仄見えて来る筈の曲である<sup>4)</sup>。



[D]



[F]



[E]

図10 観月の間襖絵完成作品





図11 観月の間襖絵設置風景



図12 観月の間襖絵設置風景

#### 引用文献

- 1) 旅館岩惣パンフレット『岩惣 IWASO』岩惣, p. 4, 2017
- 2) 竹内純一他監修『和楽ムック「琳派」最速入門』小学館, p. 38, 2015
- 3) 浅野千鶴子他『フォーレ歌曲集』全音楽譜出版社, p. 63, 1959
- 4) 同上書, p. 63

#### 参考文献

- 山下裕二・高岸輝監修『日本美術史』美術出版社, 2014
- 山川武編集『琳派 光悦／宗達／光琳』学習研究社, 1979
- 広島県立美術館編『平家納経と厳島の宝物 厳島神社世界遺産登録記念展』広島県立美術館, 1997
- 金子礼子『ガブリエル・フォーレと詩人達』藤原書店, 1993
- Petitfils, pierre『ポール・ヴェルレーヌ』筑摩書房, 1988
- 三桝正典『日本の伝統文化と現代アートの融合～ジャパニーズ・モダンの創造』三晃書房, 2016
- 旅館岩惣パンフレット『岩惣 IWASO』岩惣, 2017